



## がんの特化した検診を開始 — 予防医学の新たな展開を始めます —

### 医事課

香川大学医学部附属病院がんセンター「がん検診・診断部門」では、従来の脳ドック・心臓ドックに加え、がんの特化した検診（胃がん検診、大腸がん検診、膵臓がん検診、肺がん検診、前立腺がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診、PET検診）を提供し、完治を目指すがんの早期発見に努めます。

本院のがん検診・ドックの特色は、先進診断機器や最新の診断法を用いて、がんの専門医が診断、画像診断においては、放射線診断医・マンモグラフィ読影認定医が読影し、病変の早期発見に努めます。

また、検診・診療を通じ、今後も県下唯一の大学病院・特定機能病院として地域医療を支えるとともに、最良・最新の医療の開発、提供を目指します。

ご予約は、Web予約フォーム又は電話でお申込み下さい。  
 ○電話での申込み:087-891-2055  
 医事課検診受付(平日:8:30~17:15)

検診メニュー	料金(税込み)
胃がん検診	15,600円
大腸がん検診	21,100円
膵臓がん検診	43,200円
肺がん検診	18,900円
前立腺がん検診	12,100円
乳がん検診	6,100円
子宮頸がん検診	12,500円
PET検診	104,300円
脳ドック	42,400円
心臓ドック	49,200円

Web予約フォーム  
<https://www.med.kagawa-u.ac.jp/~gankenshin>



## 「総合地域医療連携センター」設置について

### 医療支援課

香川大学医学部附属病院は地域の中核病院として、高度な医療や先進的な治療の提供を目指しています。また、地域包括医療構想や地域包括ケアシステム構築の中で大学病院として担うべき役割を明確にしていく必要があります。

このたび、病床の効率的運用と地域医療機関連携の更なる充実を図るため、既設の地域連携室及びメディカルサポートセンターを発展的に解消し、平成30年4月1日付けで、ベッドコントロール部門、メディカルサポート部門、入院受付部門、地域連携部門の4部門からなる「香川大学医学部附属病院 総合地域医療連携センター」を設置しました。

入院患者のケースマネジメントの充実とともに、速やかなベッドの確保と空床の公平かつ効率的運用の促進と地域医療機関との連携を図り、患者サービスの一層の向上に資するための業務及び支援を目的として組織されたものです。

ベッドコントロール部門	メディカルサポート部門	入院受付部門
入院を必要とする患者さんに速やかにベッドを確保し、安全で質の高い医療・ケアを提供するために、病院全体の病床を公平かつ効率的、効果的に運用することができるよう調整します。	外来受診(入院決定時)から入院時及び退院後の生活全体を視野にいれ他職種協同のアプローチを実践します。	入院患者さんの受付・手続きに関して対応します。

**地域連携部門**  
 地域連携部門には、前方支援と後方支援があります。前方支援では、紹介患者さんの診療予約、公費負担制度の申請に関すること、診療情報提供に関すること、セカンドオピニオン等の予約に関する業務を行っています。後方支援では患者さんの在宅支援や転院支援の調整、療養相談をはじめとする医療福祉相談などを行っています。患者さんの抱える療養上の様々な問題に対する相談や支援を専従の看護師・メディカルソーシャルワーカーや事務職員が医師等と連携を取りチームで対応しています。

現在、病院再開発整備中のため、センター各部門の運営は仮設にて対応しており、平成30年度末に改修工事が完了する見込みです。整備前に先行して、「香川大学医学部附属病院 総合地域医療連携センター」を立ち上げ、4部門の機能充実、スタッフの増員、多職種連携による総合的かつ効率的な支援等に取り組んでいきます。

これを機に職員一同新たな気持ちでより一層努力してまいりますので、今後とも、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

外来・検査部・輸血部・血液浄化療法室  
乳がん看護認定看護師 山下 加奈子

乳がんは年々増加傾向にあり、日本人女性のかかるがんの中で第1位となっています。乳がんになる年齢は他のがんと比べて、社会や家庭での役割が大きい40歳代に好発年齢のピークがあります。また若年性乳がんと呼ばれる35歳未満の乳がん患者さんは約3%の割合ですが、年々増加傾向にあります。そのため、好発年齢から乳がん患者が経験するライフイベントには、結婚、出産、育児、介護などがあり、また仕事を持ちながら治療を受ける患者さんが多いことも特徴的です。一方で、乳がん治療の経過において、患者さんには初発診断時の意思決定、術前化学療法の実施、手術後の再発リスクに応じた術後補助療法の実施、乳房再建術等の手術術式などいずれの時点においても複数ある選択肢から意思決定が求められます。また内分泌療法は5～10年と長期に渡る場合もあり、乳がん患者さんは女性としてのライフイベントを経験しながら、治療を受けることになります。

乳がんの標準的治療(初期治療)の一般的な流れとしては、まずは手術を実施し、病理検査の結果で再発リスクを見極めて術後補助療法として薬物療法が実施されます。手術方法について乳房切除するか温存手術にするか、乳房再建をどうするのか、患者さんの希望を取り入れることが可能であるのが乳がん手術の特徴です。患者さん自身が自分の生活や性格を踏まえた価値観をもとに、後悔のない術式を選択することが大切となります。また近年ではセンチネルリンパ節生検(見張りリンパ節)のみで腋窩リンパ節郭清を実施しないケースも増えたため、術後リンパ浮腫を発症する患者さんも減少しています。しかしリンパ浮腫を発症した場合でも当院にはリンパ浮腫ケア外来(毎週月曜日:紺谷医師)があり、必要時にはリンパ浮腫ケア看護外来(毎週金曜日:私費診療)でのドレナージュや圧迫療法等の保存的治療も可能な体制が整っています。乳がん術後のリンパ浮腫で悩んでいる患者さんがいれば一度受診してみてください。

	ホルモン受容体陽性	HER2陽性	
ルミナル ホルモン受容体陽性	●	■	70%
ルミナルHER2 両方とも陽性	●	●	5～10%
HER2 HER2陽性	■	●	5～10%
トリプルネガティブ 両方とも陰性	■	■	10～15%

図1 乳がん細胞のタイプ

	ホルモン療法	抗がん剤治療	分子標的療法
ルミナル ホルモン受容体陽性	●	▲	■
ルミナルHER2 両方とも陽性	●	●	●
HER2 HER2陽性	■	●	●
トリプルネガティブ 両方とも陰性	■	●	■

図2 乳がん細胞のタイプと薬物療法

乳がん術後には再発予防のための薬物療法も実施されます。乳がんは乳がん細胞のタイプによって大きく4つに分けられます(図1)。ルミナルタイプ、ルミナルHER2タイプ、HER2タイプ、トリプルネガティブの4つです。その乳がん細胞のタイプによって、ホルモン療法、抗がん剤治療、分子標的治療から必要な薬物治療が決定します(図2)。しかし薬物療法はがんを抑制すると同時に副作用も避けられないのが現状です。例えば抗がん剤治療による脱毛や爪障害、色素沈着等によるボディイメージの変化、卵巣機能への影響や閉経などの女性性の喪失、子育てや親の介護、仕事の継続の困難さなどを体験することになります。このような患者さんに対して当院では医師、看護師、薬剤師、MSW等を中心にチームで関わり、治療にともなう副作用がマネジメントされ生活に支障がでないようにしたり、新たなボディイメージを受容できるように支援したり、不安が生じたときに医療者に相談できる等の環境があります。また今年中に、新たな薬物療法としてPARP阻害剤が加わる予定になっています。PARP阻害剤は遺伝性乳がんに適応する薬剤です。遺伝子異常が発見された場合、その結果は乳がん患者さんのみでなくその家族や子どもにも影響を及ぼす可能性が高く、問題は複雑化する可能性があります。これらの問題に対してもチーム全体でサポートしていきたいと考えています。



※第21回イキイキさぬき健康塾(平成29年1月22日開催)の講演内容を要約したものです。

四国新聞社の記事転載について、ホームページでの公開には  
許諾されていないため、転載記事を除きました。

四国新聞 2018年(平成30年)1月13日(土)掲載 (四国新聞に掲載について許諾済み)

# イキイキさぬき健康塾

香川大学医学部附属病院 医療セミナー

高松市内で定期的に行っている医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」がケーブルメディア四国のコミュニティチャンネルで放送中です。実際にセミナーにご参加いただいた方の振り返りに、セミナー当日に参加できなかった方に、医療セミナーに興味のある方に、皆様ぜひご覧ください。

皆さんは、脳卒中という言葉を知ったことがあると思います。もしかすると身近に脳卒中になってしまったという方もいらっしゃるかもしれません。

脳卒中とは、突然に脳の血管が閉塞したり(脳梗塞)、破れたり(脳出血やくも膜下出血)するために発症する病気です(手足の運動麻痺や言語障害など)。脳卒中は前兆を認めることの方が少なく、それまでは健康だった人がある日突然に発症することがほとんどです。最近では脳ドック(MR検査)などが行われてつまりそうな血管や破れそうな血管を発見し、脳卒中を起こす前に予防することも可能ですが、脳ドックで全てが解決するわけではありません。脳卒中は予防が最も重要です。しかし、もし起こしてしまった場合には早急に治療を開始した方が、後遺症を残さなかったり、その程度が軽かったりする場合があります。

特に最近では、脳梗塞の治療として、血管がつまってから治療開始までの時間が早い場合には、血栓溶解剤の注射(tPAと言います)やカテーテルを使用した再開通治療が行われるようになってきました。血栓溶解剤の注射は、脳梗塞を起こしてから4時間半以内に注射を開始できる場合にだけ使用できます(例外もあります)。カテーテル治療は、血栓溶解剤が使用できない場合や、発症から4時間半を越えても大きな脳梗塞を起こしていない場合に行われます。カテーテルでの再開通治療は、カテーテル器材と技術の進歩もあり、閉塞している部位にもよりますが、約8から9割の確率で再開通が可能で、再開通できると手足の運動障害や言語障害の回復ができなかった場合よりも良いと報告されています。カテーテル治療はトレーニングを受けた医師と限られた施設でしか行われていません。日頃から、どの施設でこういった治療が可能かどうかを知っておくのも良いと思います。香川大学では全ての治療が可能です。

最後に皆さんには、適度な運動を行い、高血圧や糖尿病などの成人病にかからないように気をつけること、すでに投薬されている方は医師の指示があるまで休薬や中止をしないこと、もし脳卒中にかかったかと思ったら、早く病院を受診することをお勧めします。

毎日新聞「四国健康ナビ」H29.11.21掲載

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長  
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H30.7~8月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
7/8	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「安全で安心な歯科インプラント治療を受けるために」	総務課	(087)891-2008
7/12	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師がお話をします。	臨床栄養部	(087)891-2066
7/19	14:00~16:00	西1階カンファレンスルーム	がん患者サロンセミナー 「不安と悩みのスパイラルに対する「心理学的気晴らし」のススメ」	がん相談支援センター	(087)891-2473
7/26	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と歯科衛生士がお話をします。	臨床栄養部	(087)891-2066
7/29	13:30~17:00	三木町防災センター 3F大ホール	平成30年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動 市民講座	消化器・神経内科	(087)891-2156
8/9	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師がお話をします。	臨床栄養部	(087)891-2066
8/23	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と理学療法士がお話をします。	臨床栄養部	(087)891-2066
8/25	14:30~17:30	香川県社会福祉総合センター 第1中会議室	肝疾患に関する医師以外の医療従事者研修会	消化器・神経内科	(087)891-2156

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、加賀宇(総務)、岸野(病棟)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、田川(管理)、田中(看護)、富田(経営)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、横井(情報)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]